

## 8.4 研究会

### 天文台主催・共催

1. 第10回 宇宙総合学研究ユニットシンポジウム  
「宇宙にひろがる人類文明の未来 2017  
—宇宙における持続可能な社会基盤の構築—」  
2月11日–12日 (京都大学)
2. 太陽研連シンポジウム  
「太陽系科学の中での太陽研究の将来展望」  
2月20日–22日 (宇宙科学研究所)
3. Symposium on Space Weather and Habitable Zones  
6月27日–28日 (京都大学)
4. 4th Asia-Pacific Solar Physics Meeting (APSPM-4)  
11月7日–10日 (京都大学)

アジア太平洋地域における太陽物理学研究は、日本の太陽観測衛星「ひので」(2006年～)、インドの太陽 X 線観測衛星「SOXS」(2003年～)、中国の新太陽電波ヘリオグラフ(2015年～)や口径1 m 真空太陽望遠鏡(フーシャン湖 NVST、2011年～)、米国の口径1.6 m 太陽望遠鏡(ビッグベア NST、2011年～)など、人工衛星・地上観測の装置の観点だけでも、著しい発展を遂げている。また、アジア太平洋地域の急速な太陽物理学分野の発展に伴い、中国–インド、日本–韓国といった2国間連携を中心とする国際共同研究の推進も活発に行われている。

本国際会議「アジア太平洋太陽物理学会合 (Asia-Pacific Solar Physics Meeting: APSPM) 2017」は、この地域の太陽物理学分野の研究交流を一層加速し、最新の研究成果を共有したり、共同研究を推進したりすることを企図し、2011年から2年に1度の頻度で開催され、これまでにインド・中国・韓国で行われた。通算第4回目となる今回の APSPM2017 は、初めて日本での開催となった。また今回は、アジア太平洋地域において、太陽物理学分野周辺の研究領域(太陽系科学、宇宙天気・宇宙気候、恒星物理学)との一層の研究交流を促進できるよう、招待講演者の選定やプログラム作成に配慮をした。

本研究集会では、4つのセッション「装置開発の進展と将来計画」「太陽外層大気の電磁流体プロセス」「太陽フレア・噴出現象と宇宙天気予報」「太陽内部構造と太陽・恒星活動サイクル」が設けられ、基調講演・招待講演・一般講演を合わせて、総数50件の口頭講演と、90件のポスター講演があった。APSPMは、若手研究者を対象とした表彰の制度も充実しており、これまでの研究業績に対する Young Career Award が P. F. Chen 氏(中国)に贈呈された。また、本研究集会での講演に対する Best Presentation Award が設けられて、口頭講演で発表される研究成果はさることながら、ポスター講演でも多くの研究成果が発表され、休憩時間にはその前で活発に議論する姿が各所で見られた。本賞は、今回は G. Hazra 氏(インド)、鳥海 森氏(日本・国立天文台)、Q. Hao 氏(中国)に贈られた。

APSPM2017では、15ヶ国(中国・インド・日本・韓国・台湾・オーストラリア・米国・インドネシア・チェコ・マレーシア・サウジアラビア・ロシア・ノルウェー・ニュージーランド・英国)から150名(内、海外からは90名)に上る参加があり、APSPMの基幹国(中国・インド・日本・韓国・台湾・オーストラリア・米国)以外の、発展途上国を含む多く



の国からも参加者があった。本研究集会は、国立天文台の他、名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会経費、科研費・新学術「太陽地球圏環境予測 (PSTEP)」、京都大学教育研究振興財団からの支援を受けて開催されたが、これらの財政的な援助により、アジア太平洋地域を中心に多くの国からの参加を受け入れることができた。

今回の研究集会を通して、今後、アジア太平洋地域に展開されているさまざまな観測施設のデータ解析が促進され、またそれらを通じた学生・若手研究者・発展途上国の研究者等を支援することが可能になると期待される。さらに、今後アジア太平洋地域の大型将来計画として、すでに建設・開発が始まっている米国・ハワイの DKIST やインドの Aditya 衛星をはじめ、インド 2 m 望遠鏡、中国 8 m 望遠鏡、日本小型 EUVST 衛星等があるが、これらはいずれも国際協力を必要とする大きなプロジェクトであり、本研究集会によって計画の内容を共有することができた。これにより、アジア太平洋地域における人材交流を促進しより強固な協力関係を築くことができると期待される。

(浅井)

#### その他の LOC, SOC, Chair, 司会, 世話人担当

- ・ サウジ FMT ワークショップ  
2月13日-2月17日 (京都大学)  
世話人 (上野悟、大辻賢一)
- ・ ALMA 太陽ワークショップ  
2月23日 (国立天文台三鷹)  
世話人 (浅井歩)
- ・ 日本地球惑星科学連合 2017 年度連合大会  
P-EM04 セッション (Space Weather, Space Climate, and VarSITI)

5月22日-23日(幕張)

コンビーナ(浅井歩)

・AAPPS(1st Asia Pacific Conference on Plasma Physics)

アジア太平洋プラズマ物理国際会議

9月17日-23日(Chengdu, China, 中国四川省成都市)

International Organizing Committee

Program Committee (PC chair) Shibata, K.